

米沢工業會誌



直江石堤

米沢は縄文時代からの遺跡があり、以来人々は生活を営んできた。支配者(領主)は色々変わったけれども、現在の米沢市に影響を与えている偉人の一人が「直江兼続公」である。

上杉謙信時代、景勝の小姓として共に学んだのが彼である。会津120万石時代30万石は直江兼続が所領していた。知将として有名であるが、関が原で敗れ米沢30万石に120万石の藩士、藩民がやってきた。そこから本格的なまちづくりが始まる。最も力を入れたのが「水」すなわち堤防と利水である。

「水を制するものは国を制する」と言われているが、松川(最上川源流)の堤防や掘立川(山大工学部西側の川で三の丸を兼ねた)の新設工事そして芳泉町等に水路を作った。

赤崩付近の松川は今でも暴れ川で、橋の建て替えや河岸工事が時折行われている。今はこの辺一帯を直江堤公園として市民に広く親しまれており、ウォーキングやジョギング姿が良く見られる。